

『 禅のこころ -曹洞宗- 』

梅 花

平成30年2月第3週放送

「^{ばいか}梅花」とは^{うめ}梅の花のことです。立春も過ぎ、暖かい地域では紅梅や白梅の開花の便りが届くようになりました。

現在、和歌や俳句などの世界で“花”といえは、桜の花を指しますが、以前は花といえは梅の花でした。漢詩の影響などにより、“花”といえは中国からもたらされた「梅」であったのが、^{けんとうし}遣唐使が廃止された以降は日本独自の桜の花へと移り変わったようです。

曹洞宗では、^{ばいかこう}梅花講という^{えいか}ご詠歌や^{わさん}和讃をお唱えする^{こう}講があります。正式には、「^{ばいかりゆうえいさんか}梅花流詠讃歌」といい、^{けんとうし}講員の数は全国に十三万五千人ともいわれています。お釈迦さま・^{どうげん}道元禅師・^{けいざん}瑩山禅師の教えを学び、仲間と一緒に^{えいさんか}詠讃歌を通じて信仰活動を実践しようとする団体です。

お寺に集まり、さまざまな語らいとともに「^{ばいかりゆうえいさんか}梅花流詠讃歌」を学び、^{さほう}お作法やお唱えを学ぶ楽しさの中から、お互いの幸せを願います。道元禅師の和歌や仏さまの教え、ご供養の意味を込めた歌詞など数多くの曲がありますが、新しいところでは、歌手の南こうせつさんが作られたものもあります。

色とりどりのさまざまな“花”がある中で、お釈迦さまは『^{ほくきょう}法句経』の中で花について次のように説かれています。

「花の香りは風に逆らっては進んで行かない。^{せんたん}梅檀もタガラの花もジャスミンもみなそうである。しかし、徳のある人々の香りは、風に逆らっても進んで行く。徳のある人はすべての方向に^{かお}薫る……。」

^{せんたん}梅檀は^{びやくだん}白檀、^{ぎやら}タガラは伽羅のこと。そしてジャスミンもそれぞれ香りの良い植物です。良い香りのように、徳のある人は風に流されずに良い影響を持って、すべての方向の人を導くのです。

梅の花の香りもそのようなものであり、その名前を取った「梅花流詠讃歌」も、信仰活動に良い影響を与えてくださっています。仏の教えにそった心安らかな生活を願い、徳のある人として生活できるよう精進したいものです。

「梅花流詠讃歌」に興味があるという方は、お近くの曹洞宗寺院、もしくは関東管区教化センターまでお問い合わせください。

— 終 —